

# ビワ生育情報

千葉県  
平成27年2月号

## 平成27年1月の気象

平成27年1月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は、第1半旬を除いた5半旬で平年を上回ったが、第1半旬は平年より2.3℃下回り、寒暖差が大きかった。月平均気温は6.0℃で平年並みで、前年より0.5℃低かった。また、第5半旬を除いた5半旬で氷点下を記録し、氷点下日数の月合計は9日で、平年及び前年より約1日少なかった。

最低極温は、第1及び第2半旬を除く4半旬で平年を上回った。暖地園芸研究所では幼果が寒害を受ける-3.0℃以下を記録した日はなかったが、館山観測所（館山市長須賀）では1月2日に-2.8℃を記録し、一部の圃場では-3.0℃以下まで下がった可能性がある。

降水量は、第3、第5及び第6半旬で平年を上回ったが、その他の3半旬では少なく、特に第1半旬では降雨がなかった。月合計は120mmで、平年より33mm（38%）、前年より30mm（33%）多かった。

日照時間は、第4半旬を除く5半旬で平年を下回った。月合計は131時間で、平年より38時間（22%）、前年より27時間（17%）少なかった。

表1 平成27年1月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	4.4	6.7	7.6	4	1.1	0	-2.1	-0.3	0.3
2	6.3	6.2	6.0	2	1.5	3	-0.5	-1.0	-1.1
3	6.2	5.7	3.8	1	1.6	2	-0.4	-1.0	-0.3
4	7.0	5.8	4.0	1	1.7	3	-2.2	-1.1	-2.7
5	5.7	5.6	7.6	0	1.7	1	0.5	-1.6	-0.9
6	6.3	5.8	9.4	1	2.2	1	-1.1	-2.0	-0.1
平均/計/最低値	6.0	6.0	6.5	9	9.9	10	-2.2	-3.1*	-2.7

※：1月の過去30年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	9	0	24	27	30
2	5	21	50	22	27	17
3	32	14	4	24	27	20
4	1	11	0	30	27	30
5	25	18	0	13	27	28
6	59	14	36	18	34	34
合計	120	87	90	131	169	158

### 3月の作業

ビワは厳寒期を過ぎて春が近づくと、枝葉の伸長が始まり、果実の肥大が急速に進む。しかし、春先は夜間に冷え込むことがあり、3月中旬頃までは寒波の襲来に注意する。3月になると台木の芽が動き始めるので、接ぎ木は3月中に行う。また、摘果や袋かけは寒波の襲来がなくなった頃から始める。

#### 摘果・袋かけ

3月以降の寒波の襲来がなくなる頃を見計らって、寒害を受けにくい園から摘果・袋かけの作業を始める。

標準的な着果程度は1果当たり20枚の葉が必要である。摘房が十分でない樹は最終的な着花房率が60%になるように摘房する。1果房に残す果数は1～3果で、着果房数が多い樹では1果房に1～2果残すが、着花房数が少ない樹では収量を確保するために多めに着果させる。しかし、3果以上着果させると果実が小さくなることがある。

#### 接ぎ木

接ぎ木の適期は、台木の芽が動き始める2月下旬～3月中旬であり、天気安定した時期を選んで行う。気温の低い日に作業すると、接木した苗の活着率が低下する。4月に入ると切り口から樹液の溢出が多くなり、接ぎにくくなるので、3月中に終わらせる。台木は接木部の直径が1.5cm以上のものを用いる。太いものほど活着後の生育は良いが、あまり太いものは取り扱いに不便である。

### 樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月3日で、平年より6日、前年より12日早かった。「大房」が11月22日で、平年より4日、前年より28日早かった。「田中」が11月6日で、平年より8日、前年より13日早かった。開花盛期は、「楠」が11月20日で、平年より9日、前年より18日早かった。「大房」が12月11日で、平年より11日、前年より29日早かった。「田中」が11月17日で、平年より20日、前年より24日早かった。開花終期は、「楠」が11月30日で、平年より28日、前年より26日早かった。「大房」が1月8日で、平年より23日、前年より34日早かった。「田中」が11月29日で、平年より44日、前年より43日早かった。

本年は、花房の出蕾が3品種共に平年より早く、その後の開花の進みも早かったため、平年より早く開花が終わった。また、「楠」及び「田中」では肥大した幼果も多くみられる。ビワの耐寒性は花より幼果の方が低いいため、強い寒波はなかったものの、品種によっては、寒害を被ったと考えられる。花房の充実及び樹の生育はおおむね良好であるが、10月の台風で潮風害を受けた幼木では低温遭遇後にも落葉がみられる。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 3	11. 9	11.15	11.20	11.29	12. 8	11.30	12.28	12.26
大 房	11.22	11.26	12.20	12.11	12.22	1. 9	1. 8	1.31	2.11
田 中	11. 6	11.14	11.19	11.17	12. 7	12.11	11.29	1.11	1.10

平年：1984年（昭和59年）～2013年（平成25年）の30年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】  
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。  
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>